

MACC^{マツク}通信

Monozukuri Arakawa City Cluster

第24号

2013年3月29日発行

荒川区が進める『MACCプロジェクト』は、荒川区の特徴である多彩な産業集積を活かした、区内企業同士の顔の見えるネットワークの形成を推進することで、荒川区の産業振興(商品開発や販路拡大など)を図ろうとするものです。

「MACC通信」は、この『MACCプロジェクト』に関わるホットな情報をお届けしていきます。

今回は、「MACCフォーラム」、「荒川区産業展」、「つくば産産学連携促進市」、「分科会活動状況」についてご報告します。

第7回MACCプロジェクトフォーラム 産・学・金・公ネットワーク構築会 ～連携すれば文殊の知恵～

MACC(荒川区モノづくりクラスター)プロジェクトは、平成25年1月23日(水)にサンパール荒川において、「第7回MACCプロジェクトフォーラム」を開催しました。今回は、新事業創出や新製品開発に向けて、区内企業と中小企業支援機関の連携を図る『産・学・金・公ネットワーク構築会～連携すれば文殊の知恵～』をテーマに、荒川区と関係の深い教育機関(大学・高等専門学校)、金融機関、公的支援機関等の10支援機関がブースを設けて、区内企業との新たな交流を探りました。

“キラリと光る企業”の活躍に期待

冒頭、特別区長会会長でもある西川太一郎荒川区長が挨拶し、「荒川区にモノづくり産業を中心にした産業クラスターを形成するMACCプロジェクトを立ち上げて7年が経つ。規模は小さくとも独自の技術を持ち、特色ある事業を展開する“キラリと光る企業”を集積しようとの狙いがある。今日その成果を着々とあげ他の地域からもMACCプロジェクトの取り組みが注目されている。現況は新政権が新たな経済対策を打ち出しているとはいえ、地域経済はいまだ厳しい状況の真っ只中にある。これまで以上に取り組みを強化して、“キラリと光る企業”を育て新製品や新事業をたくさん産み出していくことが、消費者の購買意欲を盛り上げ景気を良くする“有効需要”につながる。中小企業を元気づけるMACCプロジェクトの新たな事業展開に期待し、支援していく。」と述べました。



西川太一郎区長

(有)武井工業所に感謝状を贈呈

続いて、MACCプロジェクトの事業者表彰として、新製品・新事業開発に積極的に取り組み、大きな成果を残した(有)武井工業所(代表取締役:武井秀夫氏)に対し西川区長から感謝状が贈られました。

(有)武井工業所は昭和44年設立。精密な板金加工を得意とする金属加工メーカーで、「絶対に手を抜かない製品づくり」をモットーに長年、高品質が求められる医療や理化学分野の製品を提供してきまし

た。最近では、高齢化時代に対応した福祉機器の開発に力を入れ、オリジナルの福祉用具を相次いで製品化しています。その製品が、高齢者や障がい者などを対象にした立ち上がり補助すり「立つ之助®」シリーズです。ベッドや



感謝状を受ける武井秀夫氏

いすからの立ち上がり、布団や床からの立ち上がり、トイレからの立ち上がりの際に利用する金属製の補助具（手すり）です。利用者本位に使い分けできるようシリーズ化しているうえ、自由に高さを変えたり、連結させたりして多様な使い方ができるので、利用範囲は広く介護分野をはじめ医療機関、健康福祉施設などからも注目され、社会的貢献度の高い製品としても話題を集めています。

■産・学・金・公ネットワーク構築会

～連携すれば文殊の知恵～

この企画は、区内企業が10の支援機関のブースを順に回り、各機関から事業概要や支援内容の説明を聞き、経営刷新に向けた“顔の見えるネットワーク”構築を図ることが目的です。

参加企業は5つのグループに分かれて各ブースを巡回する形で各支援機関に共同研究の進め方や技術交流の方策、金融支援の受け方、海外事業の展開策などの意見交換が行われ、ネットワーク構築の実務的な交流が進められました。

支援は多種多様

参加した10の支援機関からの企業の皆様へのコメントは以下のとおり。（ブース番号順）

①◇日本政策金融公庫◇

〈国民生活事業〉中小企業・創業企業の事業資金融資のほか、教育資金融資も取り扱っています。

〈中小企業事業〉地域経済を支える中小企業の成長・発展を金融面から支援しています。



②◇（地独）東京都立産業技術研究センター◇

技術的なことでお困りならまず相談を。専門相談員による技術相談などを用意しています。

③◇（独）中小企業基盤整備機構関東本部◇

創業・新事業展開のサポートや経営力強化の支援など多様な支援メニューで対応します。

④◇（独）日本貿易振興機構（ジェトロ）◇

海外ビジネス情報の提供、専門アドバイザーによる貿易投資相談、海外見本市・展示会への出展支援など気軽に相談してほしい。

⑤◇東京商工会議所◇

無担保・保証人不要の「マル経融資」から専門家による無料窓口相談、経営課題に関する専門家派遣、セミナー・ビジネス交流会・商談会まで広範な事業メニューで企業をサポート。まずは相談ください。

⑥◇荒川区中小企業経営協会◇

企業診断・経営革新支援など事業運営のどんな相談にも応じます。お気軽にお問い合わせ下さい。

⑦◇（公大）首都大学東京◇

産学公連携センターを通じ、大学の学術研究成果を社会に還元し、地域産業の振興に寄与しています。新製品の開発・新規事業の立ち上げに大学の知と組織を活用ください。



会場の様子

⑧◇（国大）山形大学工学部◇

山大工学部の拠点「荒川サテライト」では、産学連携のノウハウを生かして製造業を中心にした技術・経営に関する支援を行いながら、首都圏での産業と地域の活性化に一役買いたいと考えています。

⑨◇（一社）コラボ産学官◇

大学や各研究・教育機関等との“つなぎ”役を得意としています。その他大学の研究シーズ紹介、助成金情報等の提供など産学連携支援メニューを取り揃えています。

⑩◇荒川区しんきん協議会◇

荒川区に店舗を置く信用金庫が連携して地域の中小企業を支援しています。これからさらに地域企業を支援します。

【交流会】

ネットワーク構築会の後、交流会が持たれ、企業経営者や支援機関の方々がそれぞれ歓談しました。



MACCプロジェクトと会員企業がアピール 1万2千人が来場した「第34回荒川区産業展」に出展

3月9、10日に荒川区総合スポーツセンターにおいて開催された「第34回荒川区産業展」にMACCプロジェクトの会員企業が出展参加し、来場した約1万2000人に積極的なPR作戦を展開しました。会期中は、MACCプロジェクト全体を紹介する専用ブースのほか、企業単独のブースに9社（1金融機関を含む）が出展してそれぞれの特色を示す製品やサービスをアピールしました。さらに、会場では本年度に区が創設した「荒川区新製品・新技術大賞」の表彰式とその紹介パネルの展示が行われ、受賞企業9社中5社を占めるMACC会員企業の表彰・受賞作品が紹介されました。

「MACCプロジェクト」の成果を紹介

荒川区産業展では、今回も区が運営するMACCプロジェクト（事務局：経営支援課産業活性化係）が専用ブースを設けて、事業概要を紹介する広報活動を行いました。また、産学連携を軸に新製品・新技術開発や経営革新を推進してきたMACCプロジェクトの実績をパネルで紹介するとともに、成果を挙げた新製品の実物を展示してアピールしました。また、MACCコーディネーターが、ブースを訪れる方々の疑問・質問などに答えました。



企業ブースで新製品や新サービスをPR

企業単独のブースを設けて出展したMACC会員企業は9社（1金融機関を含む）で内容は下記表の通りです。

企業名	住所	出展内容
㈱折原製作所	西日暮里1-3-3 03-3805-0101	マホータイシリーズ、トイレサニタリー製品の紹介
㈱国立	南千住6-18-3 03-3802-8073	テレビにつなげるスピーカーの展示販売
志幸技研工業㈱	西尾久5-7-12 03-3894-2621	「独居老人安否確認・見守りサービス」の紹介
城北信用金庫	荒川3-79-7 03-3891-2111	お金に関する相談会の開催、事業PR
(有)武井工業所	荒川3-31-3 03-3801-0290	介護福祉補助具・手すりの展示、名刺入れの販売
㈱東京ベル製作所	西尾久4-8-4 03-3893-5741	自転車用ベル・自転車用品の展示・販売
㈱日興エボナイト製造所	荒川1-38-6 03-3891-5258	エボナイト製万年筆の販売と「魚釣りゲーム」
㈱増野製作所	荒川2-1-5 03-3891-3111	ジャイロスクリーン（機械式ふるい）によるゲーム
㈱マツダ自転車工場	東尾久1-2-4 03-5692-6531	CYCLE STUDIO LEVEL（手づくり自転車の紹介）

これらは産業展の会場ではお馴染みの区内の人気企業で、それぞれが工夫を凝らして看板製品となっている自社ブランド製品や一般家庭で使われる製品の出展・紹介や即売などを行いました。

その中で、㈱国立、志幸技研工業㈱、(有)武井工業所、㈱東京ベル製作所などは新製品を加えて、展示内容を昨年ものから刷新。㈱マツダ自転車工場は米国で最高の栄誉を獲得したという競技用自転車「ベストトラック バイク」を展示し、多くの注目を集めていました。

山形大学工学部が産業展で「モノづくり教室」を開講

さらに、荒川区における産学連携の中核機関の一つであり、MACCプロジェクトの支援機関でもある「山形大学工学部」のブースでは、有機エレクトロニクスの先端技術の紹介やオフィス内の植物工場が提案されました。併せて、イベント会場で、「こどもモノづくり教室」を開講し、同大学の技術職員らが、①オリジナル万華鏡をつくろう、②クリップモーターをつくろう、③スペシャルスライムをつくろうの3つの講座を手ほどきし、子供たちにたいへん好評でした。



「荒川区新製品・新技術大賞」に MACC会員企業5社が入賞

区が創設した「荒川区新製品・新技術大賞」は、区内中小企業が開発した優れた新製品・新技術を表彰するもので、その第1回に当たる平成24年度の表彰式と内容の紹介が今回の産業展会場内で行われました。

表彰式は、産業展の初日に行われ、紹介のパネル展示は会場内に設けた「荒川区新製品・新技術大

賞」コーナーで紹介されました。受賞企業と内容は下記の通りです。

受賞企業と新製品・新技術(◎印 MACC会員企業)	
最優秀賞(荒川区長賞)	
◎	大東工業㈱(西尾久)「耐熱シールレスギヤポンプ」
優秀賞(3社)	
◎	㈱日興エポナイト製造所(荒川)「カラーマーブルエポナイト素材の開発」
◎	精電舎電子工業(西日暮里)「バルーンカテーテル溶着機MS-BHV」
	スターメディカル㈱(西日暮里)「高分解能食道運動機能システム」
入賞(5社)	
	富士紙工㈱(東日暮里)「紙製フリップポイントバッグ(固定パーツ付)楽楽-1・2シリーズ」
	㈱電装(西日暮里)「世界一エコでスマートな太陽電池充放電コントローラSolarAmp」
◎	㈱テクニキャッチ(東尾久)「携帯緊急便利袋」
	㈱ハセベ(西日暮里)「木造耐火住宅対応パネル工法」
◎	㈱大洋技研(南千住)「自公転遊星式脱泡ミキサー マゼギ- C-30P」

『第6回つくば産産学連携促進市inアキバ』にMACCが出展

2月19日(火)秋葉原駅前にある“秋葉原ダイビル2階コンベンションホール”において『第6回つくば産産学連携促進市inアキバ』が「筑波研究学園都市50周年～限りない成長のために～」をテーマに開催されました。

このイベントは技術の進化や向上及びビジネスマッチングを目的に、首都圏企業とつくばの研究機関や企業との連携により、つくば市主催で開催されました。MACCプロジェクトでは、「フェレット」や「立つ之助®」等の福祉関連および「携帯緊急便利袋」や「防災絆手帳」等の防災関連のMACC製品を展示し、多くの来場者に紹介しました。

ステージでは、

- ①市原健一つくば市長からのご挨拶
- ②インテル株式会社取締役副社長 阿部剛士氏による基調講演「イノベーションは止まらない！インテルが見るビジネス創出とつくばへの期待」
- ③産業技術総合研究所 岩田晋氏による研究事例「産学連携の新しい形 つくばイノベーションア

リーナナノテクノロジー拠点(TIA-nano)」の発表

- ④筑波大学准教授 熊田博明氏による研究事例「次世代がん粒子線治療 中性子捕捉療法の確立にむけて」の発表

と順にプログラムが行われました。

ブース展示では大学・研究機関や自治体・支援機関が15ブース、企業が13ブースの合計28ブースが出展し、受講者及び出展者間の交流及びビジネスマッチングが行われました。

悪天候にもかかわらず、昨年を大幅に上回る来場者に、ステージプログラムも立見客であふれ、ブースにおいても賑わいが途切れることのない大盛況の促進市となりました。



第2あすめし会活動報告 工場見学会((有)武井工業所)

訪問日時：2月21日(木) 15時～17時

訪問先：(有)武井工業所

(荒川区荒川3-31-3 03-3801-0290)

代表取締役社長 武井秀夫 設立：昭和44年)

業務内容：踏み器・介護福祉機器・試作機器の開発・製造・販売

初めに武井社長より「我社は、医療機器の板金・プレス・溶接等から手がけ、小ロットでサンプル・試作等も気軽に相談にのるフットワークの良さが強みです。創業は社長の父で昭和の初期にプレスの金

型製造業としてスタートしました。その後医療機器の顧客からの要請で、昭和44年に医療機器板金部門を立ち上げ順調に事業は安定したが、10年前に薬事法の改正で、この分野の多くが保険対象外となり、一気に市場は縮小しました。理化学分野の事業で息をついていたが、平成元年から新たな事業分野を模索し、3年前にMACCに入会して、コーディネーターの支援のもと、福祉機器分野、自社製品「立つ之助®」の製品開発に成功したのは、大きな喜びです。」と説明がありました。

新製品・「立つ之助®」の説明では、「医療機器分野は経験があるものの福祉機器分野は初めてのため特に、MACCコーディネーターの中村さんから多くの支援、指導をいただき、また、首都大学東京の新田先生、デザイナーの勝間田さんを始め多くの方々にお世話になったことが製品化への成功に繋がった。」と強調しました。

武井昭彦専務からは「機械設備において、板金加工機械は多岐に渡っており、工場の生産現場は、加工の流れに従った作業しやすいレイアウトとなっています。また、板金加工は外注と内製化をうまく組み合わせることで、コスト・品質面をベストな組み合わせにするノウハウが強みです。」との説明に加え、「立つ之助®」の改良のため、ボルト止めを溶接（アルゴン）に変更して強度を高めることにした際の金属のカット、磨き、アルゴン溶接、仕上げの一

連の工程を専務が実演を交えた解説がありました。

質疑応答では「本業が縮小していく状況で、よく新製品開発を行っていく活力があったと感心しています。しかも、初めて自社製品を開発できたのは驚きです。わが社でもやりたいのですが、なかなかできません。」と参加者からの本音もでました。

「私のところでも、平成元年から考えていて、完成に24年かかっています。それと1人ではできません。MACCに入って本当に良かったです。」と武井社長が笑顔で答えたのが印象的でした。



第2 あすめし会2月企業訪問(武井工業所)

グローバルビジネス研究会活動報告 「アジア各国のビジネスの特徴と成功ポイント」

第4回グローバルビジネス研究会が平成24年12月6日(木)産業経済部研修室で行われ、「アジア各国のビジネスの特徴と成功ポイント」をテーマにアジアでのビジネス展開について、NPO法人アジア起業家村アジアテクノセンター相談室長の藤原弘氏と、NPO法人アジア起業家村推進機構専務理事兼事務局長の牟田口雅彦氏からご講演いただきました。

藤原氏講演

それでは、アジアの投資環境をご紹介します。

まず、現地での部品調達が課題です。例えば、トヨタ自動車の中国国内工場では、品質が担保できないことから、中国製の部品の使用は1割以下です。成功例としては、日本から中国に進出した大手電子部品会社では、日本と変わらない水準の不良品発生割合を維持しています。成功のポイントは、進出してから20年間、継続して時間とお金を投入して下請け企業の生産ラインのチェックと技術者の育成を徹底してきたことです。しかし、この企業は、代金の回収に問題を抱えており、売り上げの1/4が未収金となり、500人の従業員の1/3が代金回収部隊として働かざるを得ないという別の課題を抱えています。

次に、人材も課題です。海外進出している日本企業の社員は、3~4年働けば日本に帰ることができます。しかし、台湾企業の社員などは、進出先で骨を

埋める覚悟で海外に渡ってきます。日本の駐在員の現地化が必要だと思います。タイで成功している企業の社長から伺いましたが、カタコトでも良いから現地の言葉で現地労働者とコミュニケーションをとることが成功のポイントとのことでした。

続いて、連携も課題です。日本企業は、高い技術力を持っているものの、海外展開のノウハウは弱いです。中国に進出する前に海外展開のノウハウに長けて



右：牟田口雅彦氏 左：藤原弘氏

いる台湾や韓国の企業とのビジネス・アライアンスの促進が効果的と言えます。

最後に、投資環境の見極めも課題です。例えば、

国によって、転職率が高い、識字率が低い、電力が慢性的に不足している、人件費が上がり続けているなどといった問題を抱えています。各国の投資環境を個別調査し、進出先を決めることが重要です。

牟田口氏講演

ピンチはチャンス。ピンチの裏側には同じ大きさのチャンスがあります。どっしり構える心構えを持って皆様にはチャンスを掴んでいただきたいです。また、日本が一番得意なのは、人間を育てることだと思えます。これまでは、知力ばかりを鍛え、活力（胆力）がなくなってきたと感じています。アジアの力を取り入れることで、活力を上げることができると考えています。日本人技術者の高齢

化が進む中、海外にも目を向けて、優秀な人材を育成し、技術を継承していくことも大切です。

さて、実際にアジア起業家村を単立した企業の実績を見ると、アジアを土俵にしてビジネスを展開している企業は元気ですが、日本だけを対象としている企業は下り坂になっています。アジア起業家村では、ベトナムでの1,000ヘクタール以上の工業団地計画において、ベトナムと交渉して安い家賃や税率を獲得しました。ぜひ皆様も、世界の人と一緒に働ける仕事を作っていっていただきたいです。

その後、活発な質疑応答や、参加者各人が協力できる事項を順に発表し、予定時間を超過しての熱気のある会となりました。

連載～その6～

牛山博文の 毛～ひと工夫！

MACCプロジェクトでは4名のコーディネーターによる、きめ細かい企業支援を行っています。

このコーナーでは、牛山コーディネーターによる生産管理の事例やMACCコーディネーターとしての活動報告等を、わかりやすく連載で皆様にお伝えしていきます。



MACCコーディネーター 牛山博文

「会社や団体組織のなかで 新しいモノや仕組みを作る方法！」

特定の組織で新しいモノや仕組み（システム）を作る方法は次の3つの手法が考えられると思えます。

- 手法1：他の組織でうまく行っているモノや仕組みを“まね”る。
- 手法2：現状のモノや仕組みを“改善”する。
- 手法3：モノや仕組みを新規に自分で作り上げる（創造）。

さて、1番目の“まね”ですが、要は他社のモノや優れた仕組みを良い意味で“盗む”ことです。もちろん合法的に（笑）。

また、世の中の複数の組織で行われている事例を調査してそれを取り入れることも“まね”と言えるでしょう。例えばITで言えば欧米系IT会社が提供している経営管理システムの導入などがわかりやすい例だと思えます。IT企業は経営管理に必要な仕組み

（コンピューターシステム）とうまく導入するためのコンサルタント、IT技術者を準備して「一般的な会社組織が基本的に必要と思われる仕組み（コンピューターシステム）」を提供していることとなります。

“まね”のいいところは既に他者が検証した（自社よりも）優れた方法を活用できることにあります。自前で作るよりは安価ですし、作る時間も節約できるわけです。もし自社が他社より劣っている“弱み”を持っているなら、これを最少化する必要があるのですが、“まね”をすることも一つの方法です。

では“まね”の弱みや注意点は何でしょうか？
第一に、当然ですが、“まね”をしたモノや仕組み以上の価値を生み出せないということですね。さらに魅力あるモノやコトにするためには、もうひと工夫が必要です。

第二は、特に仕組み（システム）にいえることですが、うまく活用するためには自社の企業風土や長年培ってきた運営上のノウハウと摺り合わせる、ま

たは導入する仕組み（システム）に組織や運営を合わせる必要が出てきます。摺り合わせる場合はシステムを改造する費用がかかりますし、システムに合わせる場合は今までの“やりかた”との整合性の問題が出てきます。コンピューターシステム導入後に“使えない”とか“余計に手間がかかる”など現場からの不満の声が上がるなど、必ずしも成功するとは限らないようです。

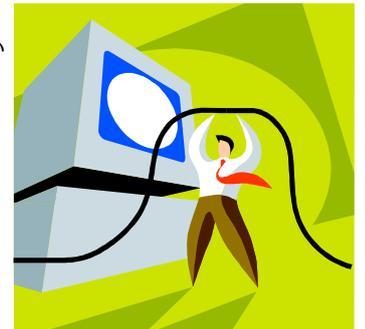
自社の状況や外部の状況を見きわめて、上手に“まね”をすることが重要です。

さて、2番目は“改善”でした。特に製造業ではおなじみの言葉ですね。品質管理活動やトヨタの現場改善などが有名です。“改善”とは今までの製品や方法の問題点を調べ、より良いモノや仕組みにする方法を考えていく活動と言えます。“改善”のための手法はトヨタの事例が非常に参考になります。トヨタ生産システムは多くの企業で試行されていますが、その根本的な考え方として、「ジャストインタイム」があります。「ジャストインタイム」を実現するために「5S」「ムダ取り」「カンバン」「標準化」「作業標準」「標準作業」「後工程引き取り」などの手法が“手段”として存在しています。現場改善手法を学ぶと言う意味で非常に効果が期待できると考えられます。最近では製造業以外にもトヨタ生産システムの考え方を取り入れる企業があり成果を上げているようです。

しかし、実はここにも落とし穴があります。80年

代以降トヨタ生産方式を導入した企業はたくさんありましたが、そのすべてで効果があったとは言い切れません。導入したものの、導入を中止した企業も沢山あるのです。その理由の一つに「改善目的」の設定が曖昧であるということが考えられます。現場の“改善”なのか、事務手続きの“改善”なのか、組織の“改善”なのか、経営問題の解決なのか、といった“改善”のレベルにあった手法がとられたかどうか問題になってくるのです。トヨタ生産システムの優位性の根本にあるのは、実は「優れた販売システムがあってこそ、生産全体の整合性がとれる仕組みである」ことを理解する必要があります。例えば「稼働率ではなく可動率を100%にせよ」とか「売れに合わせて生産する」「仕事がなければ機械を止める」などは販売力が弱い会社では絶対に実現できません。自社での“改善”の「目的」をしっかり認識して“改善”レベルにあった手法を導入することが重要になるということですね。

最後の3番目は、紙面の都合により、次回という事にしましょう。25年度、新しいMACC通信でお会いしましょう！！



MACCコーディネーター TOMMYの部屋 VOL.22



「荒川河津桜物語」



MACCシニアコーディネーター 豊泉光男

河津桜の由来

「花は桜木、人は武士」と古い例えにあるように、桜は我が国で市民が最愛する花であろう。桜と言えばソメイヨシノが最もポピュラーであるが、最近早咲きということで、河津桜もちらほら見かけるようになった。河津桜は1月から2月に開花する早咲きである。花卉の色はソメイヨシノよりピンクの色が濃く、花持ちは良く約1ヶ月と見頃が長い、大島桜と緋

寒桜の突然変異の交雑種である。1955年に飯田勝美さんが静岡県賀茂郡河津町田中で原木を偶然発見したことが由来である。原木は約60年位の樹齢を数える。

1968年頃から河津桜は増殖され、広まっていった。荒川区では、汐入公園や



トミー河津桜原木前

荒川公園などでお花見をすることができる。荒川公園には今から7年前に市民の手で2本の河津桜が植樹され、3月13日現在、開花して見頃となっている。



河津桜(荒川公園)

出会い

1987年社長に就任したトミー。注目される反面、トップセー

ルスの夜討ち朝駆けのハードな毎日が続いている。ふとテレビのブラウン管に目をやるとニュース番組を放映している。「静岡県河津町では、2月の厳しい寒さの中、早咲きの河津桜が見頃を迎え、多くの観光客で賑わっています。」とテロップが流れた。忙中閑あり、寒さの冬中でもいち早く春を告げる河津桜「なんて、素敵なんだろう。長い冬の終わりをいち早く感じる。ビジネスにも明るい弾みがつく、そうだ。すぐに見に行こう。」情報を収集すると河津町は温泉、金目鯛、つるし雛が有名で、海も美しく楽しい事が満載だと解った。その魅力が毎年必ず河津を訪れる事になった。

河津桜との出会いも、今年で30年近くになった。河津の家族旅館とのつき合いも長きに渡る。ここで金目鯛の甘酢あんかけは、一度食べたら忘れられない味だ。

河津の思い出

1987年3月、社長就任後、親孝行していない自分に気恥しさを覚え、両親を温泉に誘った。「もっとスピード落とせ。」と父の叱責が飛ぶ。「寒いから、花見より旅館の温泉に早く連れてって」と母の催促が続く。それでも、夕食の金目鯛には「こんな美味しいのは初めてだ。いい旅館だね。」と打って変わって大喜びの母。にこやかな両親と一緒に記念写真を見るたびに親孝行するとき親はなくと胸がキュンとする。

2005年3月、トミーは、無事大学院を修了する事が出来ることになった。「豊泉さんは、教授より年上だからゼミ長だね。」とゼミ仲間の声が行きかう。「えー！仕方ない、年の順だね。」と覚悟を決めたトミー。「MOT修了記念にゼミ旅行しませんか。」と誘いをかけるトミー。「いいよ。豊さん安い所ね。

決まり決まり。」とゼミ生8名で河津桜・温泉・飲み放題・七滝散策で決まり。出発初日、男だけの花見を楽しんで夜のお酒はすすむ君であった。翌日の七滝の散策は、足を痛めて「トミー途中棄権」は今思い出しても残念であった。

2012年2月25日、最後まで、待っていたが、今年は河津桜の花弁は堅い蕾のままである。折角予約した旅館では日程延期ができない。そばふる冬雨の中、河津駅に着いた。毎年の河津桜祭りは2月10日～3月10までだ。この日は、満開の桜のトンネルを潜り抜けるはずだった。駅からあちらこちらへと桜の花びらを求めて歩き回るがどこもかしこも、見るも無残な茶色の固いつぼみであった。「こんな年もあるよね。」と旅館の女将と慰めあったが、やはり釈然としない河津桜蕾み見の年であった。

2013年3月2日、天候は快晴、風もなく肌寒いが花見には最高の日和である。ここ一週間開花時期には気をもんだが、朝10時に到着した河津駅は、観光客で程よい賑わいである。

出店の呼び込みの声もあちこちから聞こえる。

「今年は、去年の残念を反転させたい。まずは60年前の神津桜の原木を見届けて、我が家に植樹する。それと我が家と同姓の橋を訪れて記念写真に収める。」と高ぶる気持ちを抑えての花見であった。振り返って見ればかれこれ30年間、毎年自然の営みの中で生かされている自分がそこにあった。

<発行>

荒川区産業経済部経営支援課産業活性化係
MACCプロジェクト事務局

〒116-0002 東京都荒川区荒川2-1-5
セントラル荒川ビル3階

TEL:03-3802-4683 FAX:03-3803-2333

E-mail:macc@city.arakawa.tokyo.jp

URL:http://

sangyo.city.arakawa.tokyo.jp/macc/